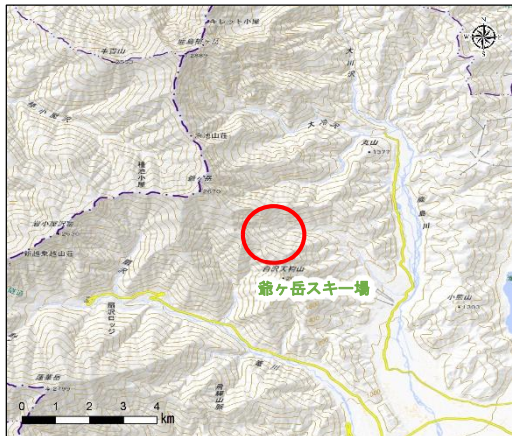


4.2 矢澤山の崩壊と天然ダム災害（位置 No.②）	
発生年月日	永享十二年（1440）八月（9月）
発生地点	長野県大町市
緯度・経度	36.580083, 137.766994
発生誘因	降雨
天然ダムの形成	有 ・ 無
被害状況	人的被害：多数、家屋被害：不明
災害概要	矢澤山が崩壊して鹿島川を堰き止めた。3 昼夜後、決壊して仁科郷に流出し、人畜死傷多数。嘉吉二年（1442）、鹿島大明神を勧請した。鹿嶋神社のおかげで、この地域は、その後の地震でも大きな被害はないという。鹿島集落には、^{かなめいし}「要石」も現存する。 現在の矢澤山の斜面には中小の崩壊地も多く分布し、土砂流出も繰り返し発生している。この時の崩壊土砂とその後も繰り返された土砂流出で、鹿島川と矢沢の合流点には、大規模な押し出し地形が見られる。



位置図

国土地理院「標準地図」に加筆

◎ 矢澤山の崩壊と天然ダム災害

永享十二年（1440）八月（9月）、鹿島の西南にそびえる爺ヶ岳（2670m）に続く矢澤山が崩壊して鹿島川を堰き止めてしまいました（図 4.6、4.7）。3 昼夜後に決壊して仁科郷に流出し、人畜死傷者が多数発生しました（天然ダムの形成・決壊）。

そしてこの災害の後、嘉吉二年（1442）には、鹿嶋神社の勧請に関する伝承が残されています。

「水源地に社を建立し鹿島大明神を勧請した。鹿嶋神社のおかげで、この地域は、その後の地震でも大きな被害はない。」

鹿嶋神社の勧請に関する伝承は、大きな災害があるごとにいくつか残されているようです。

矢澤山の斜面には今でも崩壊地が多くあり、大規模ではありませんが、土砂の流出が繰り返されています。そして、永享十二年（1440）の大規模な崩壊土砂とその後も繰り返された土砂の流出によって、鹿島川と矢沢の合流点付近には、大規模な押し出し地形（写真 4.9）が見られます。おそらく、当時の鹿島川を堰き止めたのは、この土砂流出であったと考えられます。

水山ほか（2011）の表 1.3 日本の天然ダム事例一覧表によれば、堰止高 80m（湛水高 70m）、湛水面積 170 万㎡、湛水量 4000 万㎡と推定されています。

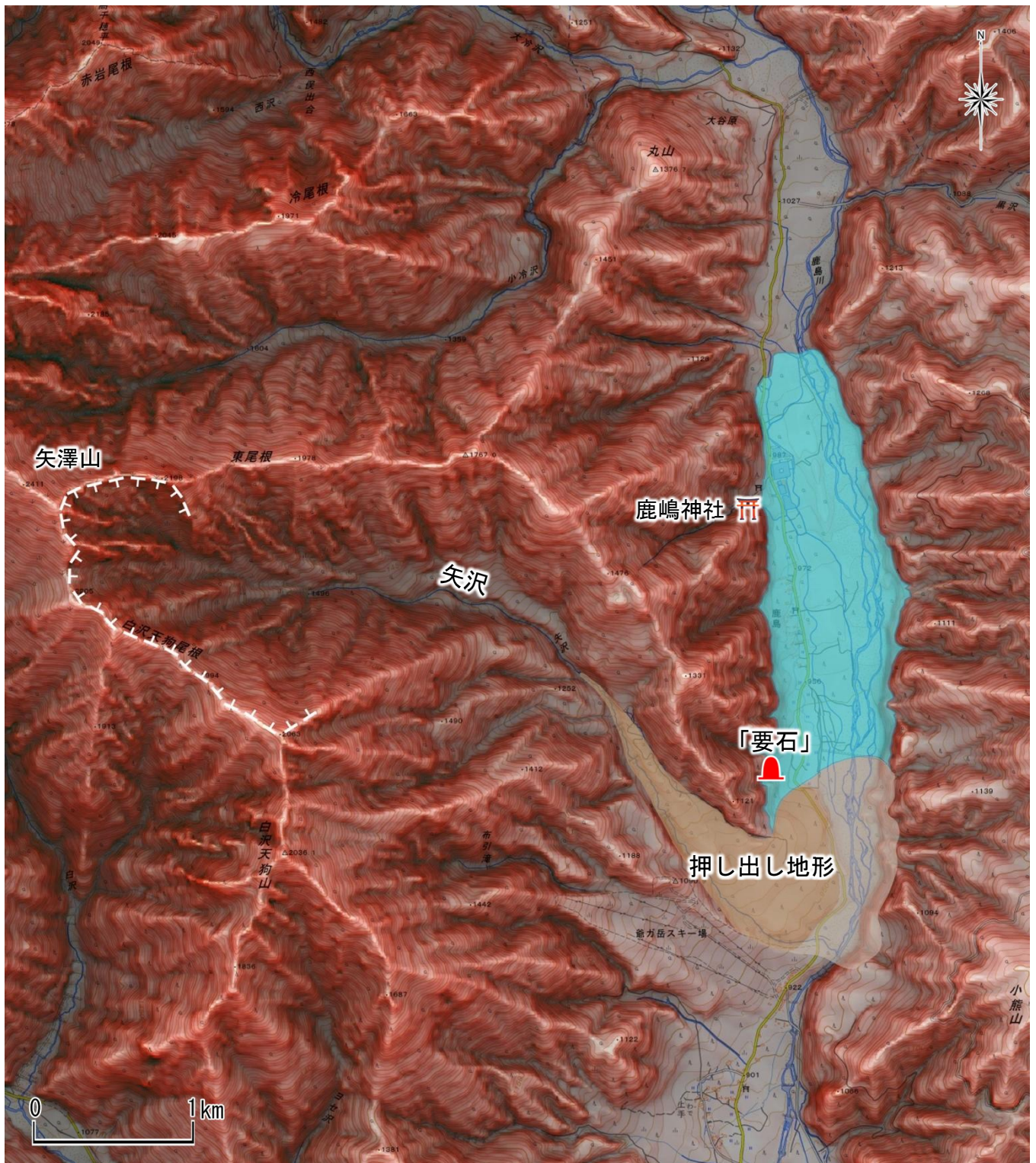


図 4.7 矢澤山の崩壊と天然ダムの災害状況図
(地理院地図「標準地図」「赤色立体地図」をもとに編集)



写真 4.9 かつて鹿嶋川を閉塞した矢沢の押し出し地形
(松本砂防事務所, 2015 年撮影)



写真 4.10 鹿嶋川・矢沢合流点付近
2024 年撮影